

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772800512	
法人名	医療法人 緑桜会	
事業所名	グループホーム東の広場	
所在地	〒961-0303 福島県白河市東釜子字枇杷山66番地5	
自己評価作成日	平成26年9月9日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成26年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者の方が落ち着いた家庭環境の中で安心・安全・尊厳ある生活を支援しています。又、医療との連携も充実しており24時間365日医療を受けれる体制を整えています。終末期・看取りについても誠心誠意対応しています。認知症予防として、バランスの良い食事に加えポリフェノール摂取・高酸素療法・ラフターヨガを3本柱として取り組んでいます。他にも、生け花教室・茶道教室・パワーリハビリ等で心身の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

身体拘束をしないケアで「声かけ、見守り、付き添い」を基本にし、毎月1回の研修会で具体的な例を挙げて、身体拘束をしないケアを研究することで「ヒヤリ」、「ハッと」の減少に繋げている。敷地内に設けた、ウッドデッキや屋根付きテーブルを活用した催しを通じて、介護度の高い利用者にも外出する機会を増やしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの基本理念がある。また職員が自ら「笑顔」で接しようと唱和して実践に努めている。	職員は申し送りの時点で基本理念を唱和して、理念を確認するとともに共有化を図っている。法人の全事業所で取り組んでいる接遇委員会で研修し共有化に務めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とは日常的に挨拶を交わし、毎月1回パーティーを催し、地域の方へ声をかけ参加して頂いている。	カレーパーティーやおでんパーティーなどの催しを毎月1回開催している。地域のボランティア団体や地域住民に参加を呼びかけている。ボランティア団体は催しに参加して交流が行なわれている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出向いて講習会やラフターヨガ講座を行い、地域住民に活かせるよう努めている。又、地元中学生の福祉体験学習を受け入れ、認知症を理解していただけるよう努めている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、行政や地域住民の声を聞き、サービス向上に努めている。	委員から「高齢者は食べることが好きだ」との提言を受けて、カレーパーティーやおでんパーティーなどの催しを月1回実施している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	白河市介護相談委員の訪問が月一回ある。また運営推進委員会での協力関係づくりに取り組んでいる。	敷地内にある市所有の樹木を市当局と交渉して伐採した。市介護相談員が毎月1回訪問している。市の福祉担当職員を運営推進委員とし、運営推進会議で意見交換している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声かけ、見守り、付き添いで対応している。身体拘束・リスクマネジメント委員会を軸に拘束をしない勉強をしている。	1階のユニットには介護度の高い利用者がいるが2ユニットともに声かけや見守り、付き添いを徹底して身体拘束をしないケアを実践している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・リスクマネジメント委員会、職員会議等の水平展開により精神的肉体的虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に対応しているが、全ての職員が対応出来る様に関係機関より学ぶ機会を得たいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書に沿って十分に説明を行い理解が得られるようにしている。解約の際は、退所後も安心して生活が継続できるように、情報の提供やアドバイスなど協力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を置きいつでも意見を身近で受け入れられる様努めている。また、外部評価も閲覧できるようにしている。	毎月の利用料金の支払いや、家族に電話した機会を活用して家族の意見を聞いている。意見や要望があればその都度サービスに活かしている。意見をいただいて、居室の清掃の改善を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い意見の場を持っている。職員会議で出た職員の意見は、管理者を通じて代表者に報告している。	毎月2～3回の職員会議の場や二階に設けた『意見箱』を通して職員の意見を聞いている。野外のカレーパーティー会場に雨天対策の提言があり、屋根を設置したことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則にのっとり働きやすい環境となっている。又、職員と交流を深める為に親睦会や慰安旅行を定期的実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修に積極的に参加し、知識を高めサービスの向上に努めている。また、資格取得を推奨し金銭面の援助がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会に参加し、同業者の交換研修等も行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のみならずご家族様にも思い等を伺い情報を収集し安心して生活して頂けるよう努めている。ケアカンファレンスを行いご本人の要望に添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会来所時や毎月一回のお便り等で報告。また必要に応じて電話連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のアセスメントを全職員が十分に理解し、本人と家族が必要としているケアを実施できるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は職員も入所者様と共に摂るとともにご本人のペースを尊重するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、ご家族様と交流を図るよう努める。月に一度、「生活の様子」をお便りとしてご家族様に送付しホームでの生活を知っていただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人の面会を大切にしている。馴染みの友人や知人の来所を利用者と一緒に歓迎し、つながりある関係が途切れないように配慮している。	家族に手紙と電話で近況を報告する際、来所を呼び掛けている。友人知人には家族を通じて来所をお願いしている。来所者にはまた訪れるようお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う他者の模索や職員の仲介を行い和が保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでもご相談頂けるよう言葉を添えサービスを終了するとともに姿勢を示し努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の願いや思いを傾聴し、その人らしさを見つけている。又、生活歴や趣味等にも着目し支援している。	利用者の思い出話や趣味などを聞き出し、本人意向の把握に努めている。事業所のケース検討会議で食事、トイレなど様々な場面での対応を学び、職員の「聞く力」を高めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント等の基本情報を職員が周知できるようカルテにファイリングし、これまでの生活環境に近い暮らしが出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し状況を把握するとともに職員間で話し合い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には必ずご本人とご家族様に希望や意見を伺う他、モニタリングを参考にしカンファレンスを実施し作成している。	利用者や家族の希望を重視した介護計画を作成している。事業所としては、利用者の「残存機能の現状維持」ではなく、「身体機能の向上」を目標にした取り組みをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録では様子の変化を記録するよう努め観察力を養っている。また介護計画者の偏った見方にならないよう記録を見直し計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのひとり一人にあったその時の状況に合う支援に努めている。レク活動でも一律ではなくご本人の希望があれば居室でくつろいでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティア等の社会資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体が医療法人であるため24時間体制で医療を受けられるように整っている。	かかりつけ医は事業所入所時点で家族と話し合ってお意をいただいて、系列法人の医療機関に切り替えている。月2回の訪問診察のほか医師が近くに居住しているため、夜間や緊急時など臨時の診察が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	運営母体が医療法人であるため、医師・看護師等いつでも相談できる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	運営母体が医療法人であるため、他機関との相談できる関係づくりも整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、主治医と連携を図りつつ、重度化した場合における対応に係わる指針を文書化し説明している。	重度化や終末期での対応の仕方について、基本指針を作成している。利用者が入所した時に家族と話し合い、具体的方針を作り、共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部研修に参加し自己研鑽している。 毎月第3水曜日、緊急時の対応の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の消防署の協力・指導を得て定期的に避難訓練を実施している。	事業所に防災管理災害委員を設けている。委員が防災避難訓練計画を作り、訓練を実施している。毎年1回は夜間を想定した訓練を行い緊急連絡の仕方を学んでいる。	地域住民や組織と連携した避難訓練を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、一人ひとりの人格、人格を守り支援している。	法人主催の接遇向上委員会が毎月1回開催され、利用者の尊厳とプライバシーを守る対応の仕方を学んでいる。利用者には「笑顔」で接し、十分に「聞き」、居室にはノックして入る、を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に自己決定を尊重している。職員の一方的な話や介助にならない様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の体操、レク活動、季節の行事などで一律な参加を促すのではなく、ひとり一人の意思を尊重して、その状況に合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する服を、出来る限り選んでもらったり、自己決定を促している。 訪問理容の提供やご本人に希望を伺いながら生活支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の食材を多く使い献立を工夫をしたり、現在は可能な方のみ職員の介助により下膳している。	毎月パーティーを開催し、誕生会ではケーキ作りを行なうなど「楽しい食事」を心がけている。食事は管理栄養士が作成したメニューを、職員がが利用者の要望に合わせて調理している。地元の食材を使い、利用者には出来る範囲で手伝って貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1500mlを目標にし、ご本人の好みの物も折り混ぜ、水分の確保ができる様にしている。 栄養バランスは1日1500kcalを目安に栄養士が管理し献立を立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯洗浄を実施し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人にあった支援を行っている。リハビリパンツ使用者は時間によって声かけ誘導している。	利用者が、トイレに行きたそうな動作を見逃さずトイレ誘導を心がけている。1日に摂取する水分目標を設定したり、日中の運動量を増やして夜間の排泄を少なくさせたり、利用者が自立した排泄が出来るよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を日々把握できる記録になっていて必要に応じて乳製品、イーージーファイバー、センナ末を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後の決まった入浴時間があるが希望があれば夕方の入浴も柔軟に対応する。	週3回、午前入浴を基本としている。介護度の高い利用者には機械浴で対応している。ゆず湯や菖蒲湯、紅葉を浮かべてなど、入浴が楽しいものになるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休息も本人の希望や状況に応じ実施している。夜間は個々に応じた時間に就寝されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の把握はもちろんのこと飲み忘れがないかチェックし飲んだ後の変化の観察も行っている。又、誤薬のないよう細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢化と認知症の重度化で活発な活動は少なくなってきたが、四季折々の行事に参加したり、レクリエーションやアクティビティ、ショッピングケアも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はウッドデッキや外に散歩に出かけている。外出の希望があれば主治医の許可を得て外出できるように支援している。	事業所の敷地や周辺の散歩の他に、近所の農産物直売場への買い物、ラーメン店や回転寿司店などに外出に出かけている。春は小峯城の桜見、秋は南湖公園に紅葉刈りに行くなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望の時は自己管理としているが大半はホームで預かり管理している。 購入依頼があれば購入して、後日、ご家族にお知らせしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を使用しご家族と自由に電話連絡を取り合える環境を整えている。 葉書や手紙が届いた場合は、耳元で読み上げたり、返信をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節感が分かるように飾り付けを一緒にしたりしている。 また、冷暖房の空調、テレビの音量なども配慮している。	食堂の前に広大なウッドデッキを設け、光に満ちた共有空間には毎月行っている事業所行事を撮影した写真が掲示されている。写真を見ながら職員と思い出話を語り合うなど、利用者に居心地の良いものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとり一人の居場所は定位置に固定しているが状況に応じて変更し穏やかに過ごせる場所づくりを支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	入所の際、馴染みの調度品や品物の持ち込みをお願いしている。また、家族や孫、ひ孫の写真なども持ち込み、飾りつけてある。それで話題づくりに活用している。	自分が使用していた馴染みのある、家具や調度品を居室に持ち込むようにしていただいている。室内には本人が写っている事業所行事の写真や家族との写真を貼り、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂など分かるように表示し、ホール・廊下には危険なものは置かないようにしている。		